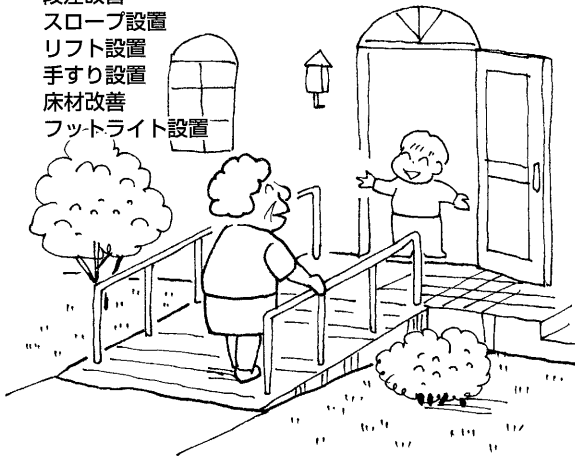


快護住宅(バリアフリー住宅)のための建築・改築ポイント

玄関ポーチ

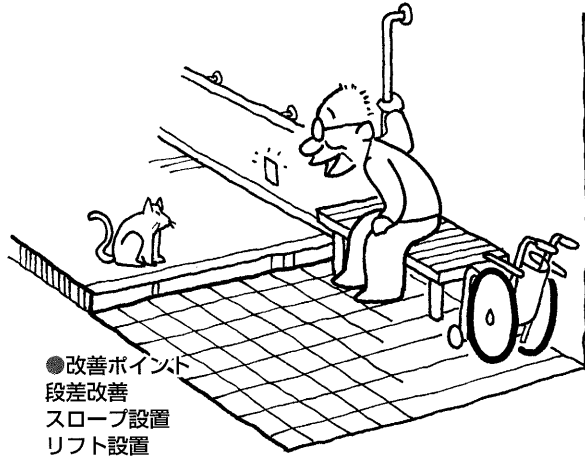
家に閉じこもっていても運動不足になり、社会と接する機会もとぼしくなります。気軽に出入りするためにも、安全な玄関まわりの整備が大切です。

- 改善ポイント
- 段差改善
- スロープ設置
- リフト設置
- 手すり設置
- 床材改善
- フットライト設置



玄関・廊下

車いすでも簡単に移動のできる段差のない玄関の改造、夜間の安全や機能回復を支援するような廊下まわりの工夫が求められます。



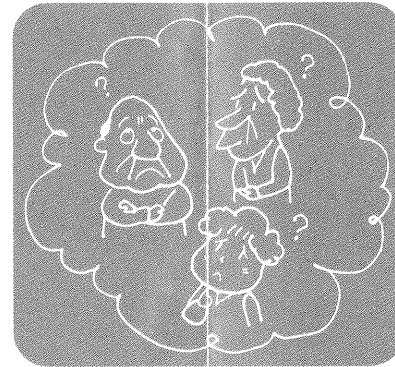
- 改善ポイント
- 段差改善
- スロープ設置
- リフト設置
- 手すり設置
- 移乗台設置
- 床材改善
- フットライト設置

お風呂でおぼれたり、階段から転落してしまうなど、住宅内での事故は意外に多いのです。(下表参照) もし浴室にひとつでも手すりがあったら、もし階段に足元灯があったら、こういう事故は防げたかもしれません。

また、平成12年度から介護保険制度が施行されますが、万一介護が必要になっても、介護負担が軽く、在宅介護のしやすさを考えた住宅にする必要があります。

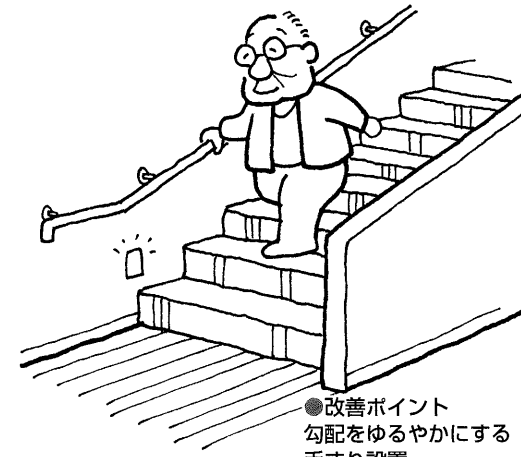
身体機能の低下がいつ、どのような状態で生じるかは、人によってさまざまです。

元気なうちに、住宅のバリアフリー化、「快護住宅」を検討してみませんか。



階段

大きな事故につながりやすいのが階段です。安全性を第一に考え、位置、形状、材質を決めることが大切です。



- 改善ポイント
- 勾配をゆるやかにする
- 手すり設置
- 足元灯設置
- 踏み板のすべり止め材設置
- 三路スイッチ設置
- 昇降機設置

廊下

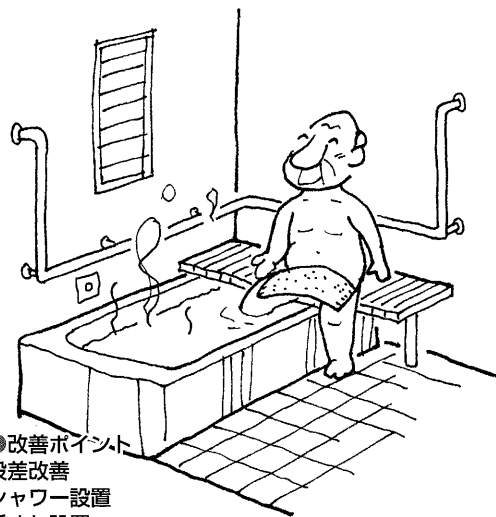
廊下への配慮は特に大切です。他の部屋との明るさの差が大きくならないように明るめに、何力所かで点灯できるようにスイッチの検討も必要です。



- 改善ポイント
- 切れ目のない手すり設置
- 足元灯設置
- 三路スイッチ設置
- 人感スイッチの検討
- 自然光も取り入れる
- 幅は85cm以上が望ましい

浴室

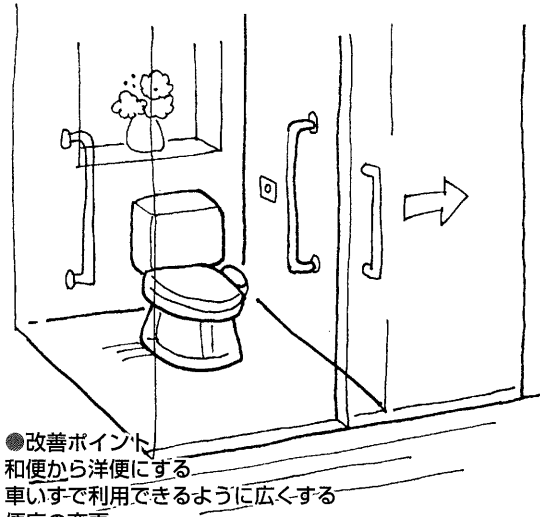
入浴は体を清潔にするとともに心身をリラックスさせるためにも大切なものです。安全に出入りでき、介助もしやすい浴室環境を考えることが大切です。



- 改善ポイント
- 段差改善
- シャワー設置
- 手すり設置
- スノコ設置
- 移乗台設置
- 非常連絡装置の設置

トイレ

車いすで使えるように、また介助しやすいように広くする必要があります。トイレが快護住宅づくりの主役といっても過言ではありません。



- 改善ポイント
- 和便から洋便にする
- 車いすで利用できるように広くする
- 便座の変更
- 手すり設置
- ドアを引き戸にする
- 非常連絡装置の設置

キッチン

毎日の食事のメニューを考え、バランスのとれた料理を作ることは健康維持に大切です。自身で調理する場合を考え、動きやすく使いやすいキッチン環境をつくれます。



- 改善ポイント
- 手すり設置
- 車いすで使える機器に変更
- ガス感知器の設置
- 照明の照度を上げる
- 開閉しやすい蛇口に変更

寝室

寝室が生活の中心になったときに備え、隣室に浴室、トイレ、洗面を設置し、明るく安心して過ごせるような環境づくりをします。

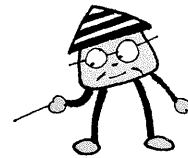


- 改善ポイント
- ベッドの変更
- 隣室にトイレを設置
- 隣室に浴室を設置
- リフターの設置
- 非常連絡装置の設置

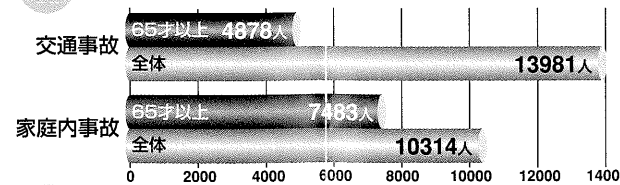
ここにバリアフリー住宅にするための主なポイントをいくつかご紹介します。

これらの点に気をつけることで、快適な暮らしを護ることのできる住宅、「快護住宅」にすることができます。

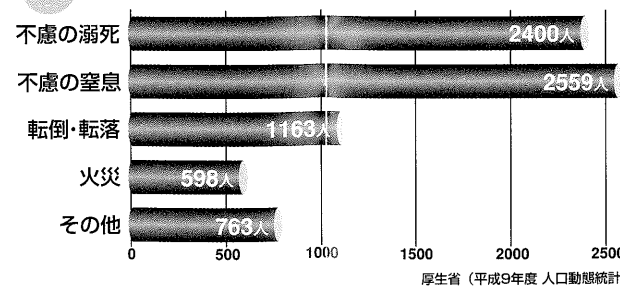
また、このようなバリアフリー住宅の建築や改築にあたって、公的な融資や助成などを受けることもできます。



交通事故と家庭内事故の死亡者数



家庭内不慮の事故の種類別死亡者数(65才以上のみの集計)



- 改善ポイント
- 手すり設置
- 車いすで使える機器に変更
- ガス感知器の設置
- 照明の照度を上げる
- 開閉しやすい蛇口に変更